

KINOLINE

紀伊國屋書店の提供する電子情報サービスの最新情報

vol.38, no.4 (July 2017)

1. 軍事化する 20 世紀の東アジア
1900 年代～1950 年代にアジア諸国で刊行された英語出版物コレクション
2. 新商品 南アジア新聞コレクション
South Asian Newspapers (1864 年-1922 年)
3. 世界地図パネルデータ作成サービス
正規の投影法に基づき、ポスター、パネル用の世界地図を作成します。
4. 風俗画報と欧米の図版資料
JK BOOKS 「風俗画報」と Gale Primary Sources コラボ企画 ～自然災害～
5. 欧米の図版資料と風俗画報
Gale Primary Sources と JK BOOKS 風俗画報コラボ企画 ～自然災害～
6. 【OCLC News 第 17 号】OCLC に関する様々な情報をお届けいたします。
7. 失敗事例から成功へのチャンスを掴む Engineering Case Studies Online
8. 20 世紀の欧米の女性史関連資料 Women's Issues and Identities

KINOLINE は Web 上でも閲覧できます。

KINOLINE

検索





BRILL

Mobilizing East Asia Online
Newspapers, magazines and books from the 1900s-1950s
1900 年代～1950 年代にアジア諸国で刊行された
英語出版物コレクション

◆軍事化する東アジア—日露戦争から太平洋戦争とその後まで◆

本データベースは、2つの大戦とその前後の時期にあたる1900年代から1950年代にかけて、東アジア各地で発行された英語の新聞、雑誌、パンフレットを収集した電子コレクションです。他では入手が不可能なタイトルなど、希少な出版物 1,200 点強 100,000 ページ分を厳選し、オンラインで独占提供します。収録されている新聞およびイラスト入り雑誌には彩色刷りのものも多く含まれており、これらすべてを全文検索可能な形で、フルカラーのページイメージで収録します。

日露戦争と日韓併合、満州事変から日中全面戦争を経て太平洋戦争へと続く十五年戦争、中国本土の政治体制の転換と東アジアにおける冷戦時代の幕開けまでを網羅する本データベースにより、アジアの国で初めて西欧列強のひとつを破った日本が第二次世界大戦で惨敗するまでの道程と、戦後東アジアの地殻変動ともいべき状況を多様かつ斬新な切り口から捉え直すことが可能になります。

近現代史、アジア地域研究、政治・紛争史研究などにご利用ください。

※さらに追加コンテンツの収録も予定しています。

◆収録定期刊行物◆

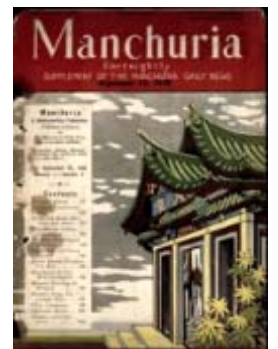
(2017 年 5 月現在(一部収録していない号もあります。))

—東アジアにおける紛争の揺籃、満州から

- ・ **Manchuria Month**
(Manchuria Daily News の月間誌), 1930, 1940-1941
- ・ **Manchuria Magazine**
(Manchuria Daily News の隔週刊行誌), 1936-1939
- ・ **Manchuria Information Bulletins** 1932-1944
- ・ **Contemporary Manchuria**
(Manchuria Daily News の隔月刊行誌)1937-1939

* **Manchuria Daily News** 1912-1940 は 2017 年夏、搭載予定

南満州鉄道株式会社より1908年に大連で創刊。中国における日本のプレゼンスをあらゆる方面において示した。



—狭隘化する日本の中枢から

- ・ **Contemporary Japan** 1932-1953

半官機関の日本外事協会(Foreign Affairs Association of Japan)が年4回刊行した雑誌。昭和研究会の蠟山政道などの思想家が監修。創刊号において、満州や上海における日本の活動を強く擁護する外務大臣芳澤謙吉の言葉が掲載され、徹頭徹尾、日本の東アジア政策を代弁すると明言してはいるものの、当時の混沌としたジャーナリズムにおいて理性的な論述が特徴。寄稿者のなかには心底からの汎アジア主義者も多かったが、かれらは中国との戦争、さらに戦後のいわゆる「逆コースの時代」にその理想が打ち砕かれるのを体験する。本誌は戦後占領期まで継続刊行。

—経済誌から

・ **The Trans-Pacific 1933-1938**

副題は”A Weekly Review of Far Eastern Political Social and Economic Developments”

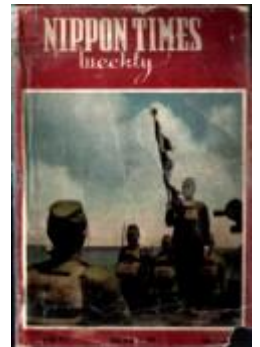
The Japan Advertiser Annual Review of Finance, Industry and Commerce 1929-1932

これら国際経済誌の記事からは、軍事経済へとシフトする日本がABCD包囲網の下で苦境に陥り、石油、鉄鋼等の物資調達のために戦争遂行が唯一の打開策と考えるに至った過程が読み取れる。日本で刊行された雑誌でありながら、日本の視点からではない論述が特徴。(2誌ともアメリカ人による編集発行。)

—言論の戦士たち

・ **Japan Times Weekly 1938-1943 / Nippon Times Weekly 1943-1944**

真珠湾攻撃に続き、中国および南方での戦闘に勝ち進んだ日本は、各地の既存の英字新聞や現地語新聞も掌中におさめ、廃刊あるいは全面的な改変を強いたが、その時代にあつて Japan Times Weekly, 改名した Nippon Times Weekly は大東亜共栄圏における代表的な定期刊行物となる。本コレクションではフルカラーで搭載。



—アジア在住の米国人ジャーナリストたち

・ **Japan News-Week 1938-1941**

1938年11月創刊。Japan Advertiser や Japan Chronicle などの英字新聞が、日本の外務省から資金提供を受けるようになる中、海外資本が所有し続けた最後の新聞として、反骨の米国人ジャーナリスト Wills により真珠湾攻撃前夜まで東京で刊行。ヨーロッパ情勢の報道については、英独両大使館の見解をそれぞれ”British Version”と”German Version”と見出しを付け並べて掲載。本コレクションでは、米国の Wills 家が保存していた希少なオリジナルから初めてデジタル化が実現した。

・ **China Weekly Review 1947-1949 / China Monthly Review 1952-1953**

China Weekly Review はアメリカの敏腕ジャーナリスト John Benjamin ‘JB’ Powell の下、上海で刊行された週刊誌。Powell は日本軍による拷問を受けて帰国。戦後、息子の John William Powell が上海に戻り Review を初めは週刊誌、のちに月刊誌として復刊。親共産主義であった Powell は、マッカーシズムが席卷する米国で、朝鮮戦争の報道をきっかけに扇動罪により告発される。本コレクションにはこの事件に関連した刊行物もあわせて収録。



—その他

・ **Hongkong News 1941-1945**

日本占領期の香港で E.G. Ogura が旧 South China Morning Post のメンバーをそのままスタッフとし同じ場所で編集発行。アジアのあらたな覇者となった日本の声を伝える。

・ **Israel's Messenger 1904-1941**

上海租界の富豪サッスーン一族と同じくセファルディ系ユダヤ人だった Nissim Elias Benjamin ‘N.E.B.’ Ezra が上海シオニスト協会の機関誌として創刊。米国でも売上は好調で、米国の対外政策への影響も指摘される。日本との関連では、1933年に Israel's Messenger が、日本を大東亜のリーダーと評して公に支持し、批判されたことが特筆される。



◆その他の出版物◆

(2017 年 5 月現在)

- ・ Symposium on Japan's Undeclared War in Shanghai 1932
 - ・ Asahi Present Day Japan Supplement 1932
 - ・ Two Years of the Japan-China Undeclared War 1933
 - ・ Four Months of War: A pen and picture record of the hostilities between Japan and China in and around Shanghai, from August 9th till December 7th 1937
 - ・ The North China Upheaval, 1937: A complete pictorial record of the North China Upheaval with a survey by W.V. Pennel 1937
 - ・ Peking and Tientsin Times Christmas Supplement 1937
 - ・ Japan in 1939 1939
 - ・ Japan's Wartime Legislation 1939
 - ・ Straits Times Annual 1941
 - ・ The Companies Act 1942
 - ・ Ten Years of Japanese Burrowing in the Netherlands East Indies: Official Reports of the Netherlands East Indies Government on Japanese subversive activities in the Archipelago during the last decade 1942
 - ・ Far Eastern Trade, Volume 3, Issue 1 - 1941
 - ・ Nippon, c.1943
 - ・ Nippon is advancing - special issue
 - ・ Three Centuries of Wars of Aggression and Conquests 1944
 - ・ China Monthly 1946
 - ・ A Survey of the Japan Communist Party 1952
 - ・ Yo Banfa! 1952
 - ・ Formosa fact and fiction 1955
 - ・ Assignment China, An American Journalist's Report of Four Years in Red China 1955
 - ・ Peter O'Connor "The English-language Press Networks of East Asia, 1918-1945" Brill 2010
- 戦間期から終戦までの中国、日本、朝鮮で刊行された英字新聞ネットワークを国際メディア史の観点から解説。

◆インターフェイス◆



掲載の商品・サービスに関するお申し込み、お問い合わせは、株式会社 紀伊國屋書店 データベース営業部

(電話:03-6910-0518、ファクス:03-6420-1359、e-mail:online@kinokuniya.co.jp) までお願い致します。

お預かりした個人情報は、弊社規定の「個人情報取扱方針」<http://www.kinokuniya.co.jp/06f/gaivo6.htm> に則り、取り扱わせて頂きます。

South Asian Newspapers (1864 年-1922 年)

World Newspaper Archive シリーズ
南アジア新聞コレクション

植民地時代のインド亜大陸の新聞を収録する電子アーカイブです。植民地支配、イギリスへの反乱、ヒンドゥーとイスラムの紛争、国民会議の展開、独立闘争といった政治的動乱からプランテーション農園の生活まで、南アジアの波乱の近代史を証言する資料です。

収録タイトル一覧



タイトル	記述言語	収録開始	収録終了	収録号数	発行地	発行国
Pioneer	英語	1865 年	1903 年	10,676	アラハバード	インド
Madras Mail	英語	1868 年	1889 年	7,156	マドラス	インド
Amrita Bazar Patrika	ベンガル語、英語	1870 年	1922 年	6,460 以上	カルカッタ	インド
Kayasare hinda	英語、 グジャラート語	1882 年	1922 年	1,822	ボンベイ	インド
Bankura Darpan	ベンガル語	1903 年	1908 年	109	バンクラ	インド
Indian People	英語	1903 年	1909 年	499	アラハバード	インド
Leader	英語	1909 年	1922 年	3,818	アラハバード	インド
Ceylon Observer	英語	1864 年	1922 年	3,578	コロンボ	スリランカ
Tribune	英語	1881 年	1922 年	7,119	ラホール	パキスタン

※2017 年現在、ベンガル語・グジャラート語の記事は全文検索ができません。

北米の研究図書館センター(CRL) の協力と監修のもとに、1864 年から 1922 年にインド亜大陸(現パキスタン、スリランカを含む)で刊行された、主に英字の新聞から重要な新聞 9 紙を選んで収録、南アジア研究における貴重な資料を提供します。

機能

- ・ 収録形式：全文検索が可能なモノクロ紙面イメージ
- ・ 検索：記事単位で、キーワード、新聞タイトル、出版日、出版地、記述言語を指定して検索可能
- ・ 認証方式：IP アドレス認証、同時アクセス数無制限

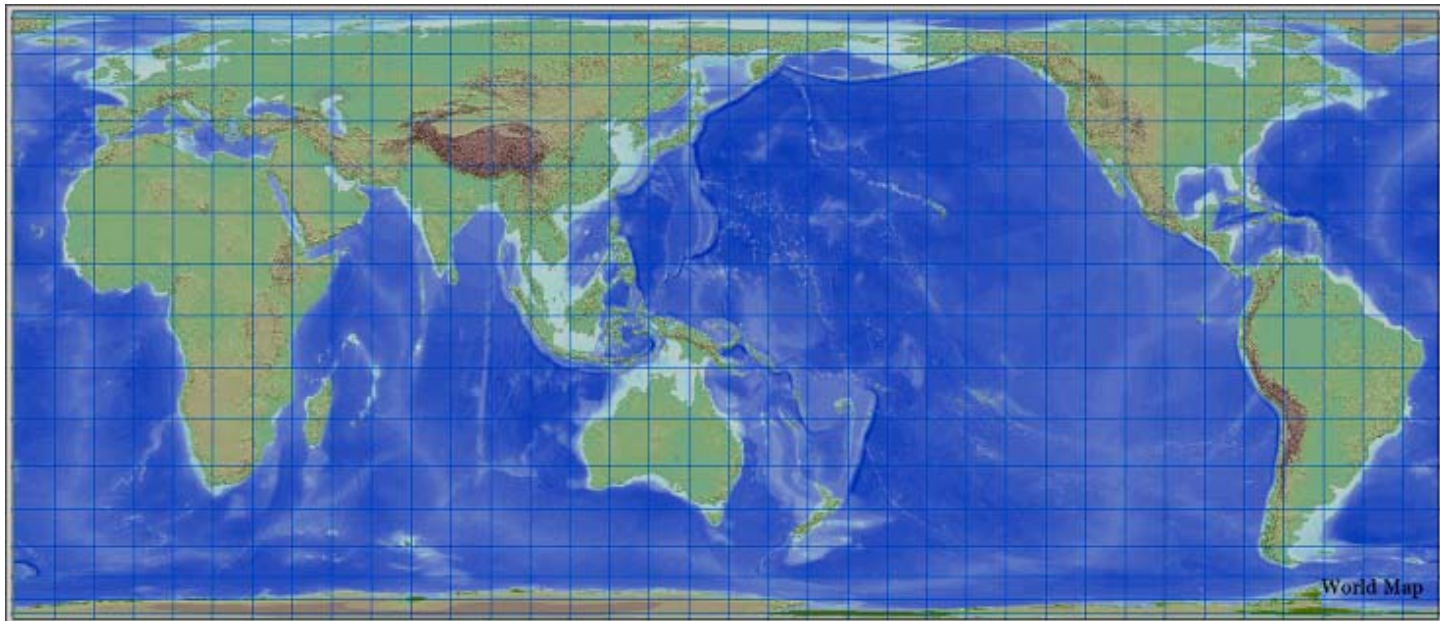
ご契約

買い切り型で販売します。データベース料金（導入時のみ）と、サーバーアクセス料金（2 年目から毎年）がかかります。個別にお見積り申し上げます。

掲載の商品・サービスに関するお申し込み、お問い合わせは、株式会社 紀伊國屋書店 データベース営業部（電話:03-6910-0518、ファクス:03-6420-1359、e-mail:online@kinokuniya.co.jp）までお願い致します。

お預かりした個人情報は、弊社規定の「個人情報取扱方針」<http://www.kinokuniya.co.jp/06f/gaiyo6.htm> に則り、取り扱わせて頂きます。

世界地図パネルデータ作成サービス



掲載の商品に関するお申し込み、お問い合わせは、株式会社 紀伊國屋書店 データベース営業部
(電話:03-6910-0518、ファックス:03-6420-1359、E-mail:online@kinokuniya.co.jp) まで
お願い致します。



関連商品「デジタル世界地図帳」 http://www.kinokuniya.co.jp/03f/denhan/gis/chizucho_web.pdf

正規の投影法(図法)に基づいた正確な世界地図を作成します。ご要望に応じてサイズは自由ですが、投影法により縦横比に制限があります。(※ サイズに応じた最適な投影法をご提案します。)

地物名の種類、量、表記言語、経緯度線の有無などはご要望に応じて対応します。また、特定の国、アジアなど特定の地域のためのデータにも対応します。電子パネルや電子黒板での活用はもちろん、データの印刷、およびポスター、パネル化(アクリルなど)も対応可能です。(上の図はペールマン図法によるサンプルです。)

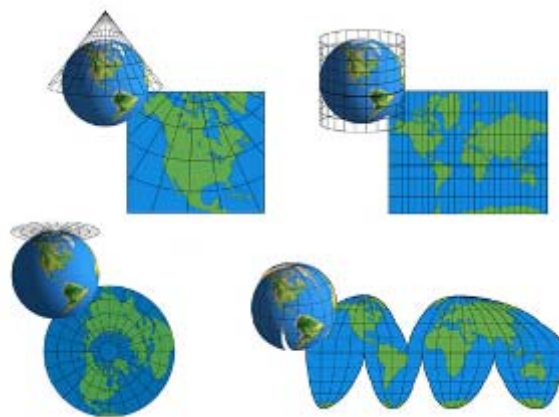
地球(球面)を地図(平面)にする 一地図の投影法(図法、Projection)について

地球は言うまでもなく球面体です。現実の地球は回転する楕円体ですが、これをモデル化して実体化したものが「地球儀」です。

平面である地図は、球面である地球を「何らかの基準」を設けて図化したものになります。「何らかの基準」とは地図を使う目的に応じて設定される計算式を指します。球面を一切のひずみなく平面に置き換えることは不可能です。たとえばミカンの皮をむいた時に、裂いた皮と皮の間に隙間が空くのと理屈です。

方位は正しいが面積が正しくない、距離と方位は正しいが面積が正しくない、面積は正しいが距離が正しくないなど、球面の地球

をさまざまな幾何的条件で平面化すると、何かを正しくすると何かがひずみます。平面化の際に適用する計算式(投影式)に基づいた方法を「地図投影法(図法、Projection)」と呼びます。次ページで代表的な投影法をご紹介します。

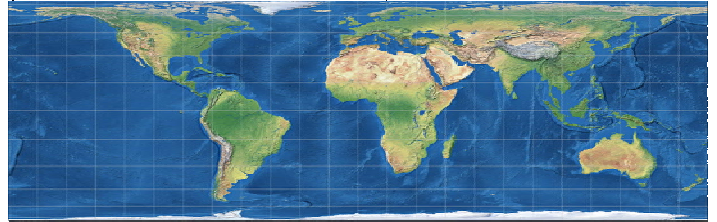


主な投影法（※ いずれもパネル作成サービスの対象となります。）**正距円筒図法**

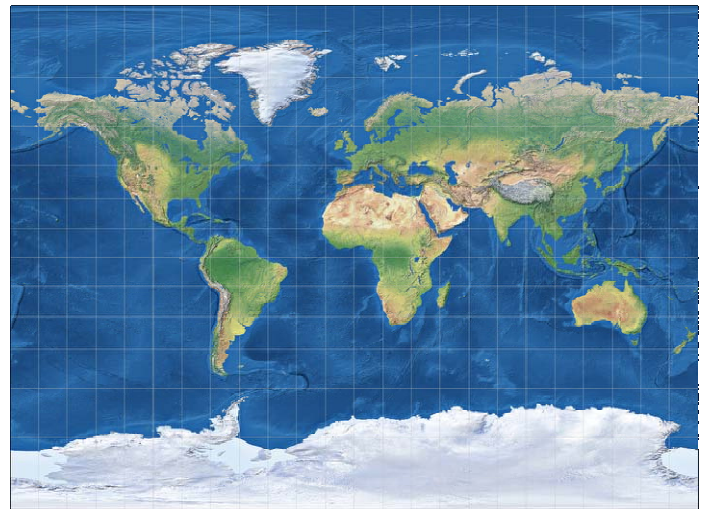
緯経度をそのまま地図上の x、y 座標とみなした投影法。緯経線が正方形となる。面積も角度も正しくないが、シンプルな図法で世界全域を索引図的に使うには適している。

**ランベルト正積円筒図法**

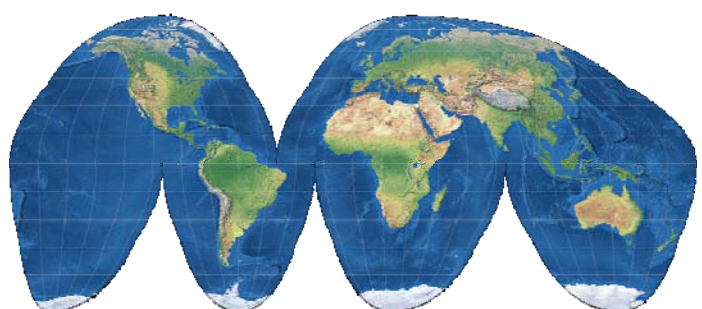
円筒図法で面積が正しくあらわされる投影法。似たものに「ペールマン図法」がある。

**ミラー図法**

メルカトル図法の高緯度での拡大を緩和して極が描けるようにした投影法。アメリカのミラーが考案。

**メルカトル図法**

航海のための正角の円筒図法として作られた。低緯度のエリアに対して高緯度のエリアの面積が大幅に拡大されてひずんでいるのが特徴。そのため、本来は世界全域図には向かない。

**モルワイデ図法****ボンヌ図法****グード図法**

JK Books 「風俗画報」と Gale Primary Sources コラボ企画

「風俗画報」と欧米の図版資料 ～自然災害～

株式会社 ゆまに書房

Web 版風俗画報は、ジャパンナレッジが提供する電子書籍プラットフォーム JK Books 上で、我が国最初のグラフィック雑誌「風俗画報」を提供するデータベースです。明治 22(1889)年創刊、518 冊からなる「風俗画報」は、我が国最大の風俗研究誌としても知られます。

「風俗画報」に掲載されている図版を、センゲージラーニング社 Gale のデータベースに搭載された欧米の図版資料と比べながらご紹介する企画、第一弾「万国博覧会」、第二弾「起源・始まり」に続き、第三弾は「災害・事故」について 7 月号と 9 月号の 2 号にわたってご紹介します。両資料を比較することで、欧米と日本に於ける災害の特徴や救済方法、報道姿勢や報道技術などについて、新たな発見があるかもしれません。

本稿では、「災害・事故」の中でも「自然災害」についての記事や図版をクローズアップします。

◆「風俗画報」における特集号

風俗画報は当初、世俗や風俗を検証して紹介し、後世に残すという目的で創刊されました。創刊直後の明治 22 年頃の号を見ると、江戸時代の風俗を回顧、考証した記事が多く、ニュース性、同時代性という色合いはあまり濃くありません。

ところが、明治 23 年に第三回内国勸業博覧会が開催され、また、明治 24 年に濃尾大地震が起こると、風俗画報史上初めて特集号が出されました。当時の人々に大きなインパクトを与えたこの 2 つの出来事により、風俗画報編集部も即時的な報道の必要性を感じたということの現れではないでしょうか？

その後、多数の特集号が発行されることとなり、風俗画報と言えば特集号が多いというイメージになりますが、そのきっかけになったのはこの 2 年間の出来事だったのではと思われます。

今回はその特集号や通常の号の記事や図の中から、風俗画報が「自然災害」をどう報じていたかをご覧ください。

◆地震についての記事、図版

第 35 号(明治 24 年 11 月 30 日) 十月二十八日震災記聞

第 36 号(明治 24 年 12 月 10 日) 震災記聞前号之続

特集号名になった「十月二十八日震災」とは、明治 24(1891)年 10 月 28 日に濃尾地方で発生した地震のことです。現在では「濃尾地震」と呼ばれていることが多いようです。マグニチュード 8 という規模で、大きな被害を出しました。

表紙 十月二十八日震災記聞 第 35 号
(明治 24 年 11 月 30 日)



震災の特集号はこの図から始まっています。

柱や梁が倒れ下敷きになっている人達があります。また、その後に起こるのであろう火事の怖さが非常に良く伝わってきます。当時の建築事情と被害の様子が図から良く分かりますね。

芥川龍之介の「疑惑」という作品にはこの図に基づいて書かれたと言われている部分があり、実際に文中には風俗画報の名前も出てきます。もし「疑惑」を読む機会があれば、是非この図と一緒に見て欲しいと思います。



震災図 十月二十八日震災記聞 第 35 号
(明治 24 年 11 月 30 日)

命からがら外に逃げ出している人、逃げ遅れて建物の下敷きになっている人、それぞれが描かれています。

大きな揺れのため、建物が倒壊するのは一瞬だったのではないのでしょうか、そんな様子がうかがい知れます。

こういった図を見ると、災害が起きたときにはどのような被害が出るか良く分かりますね。

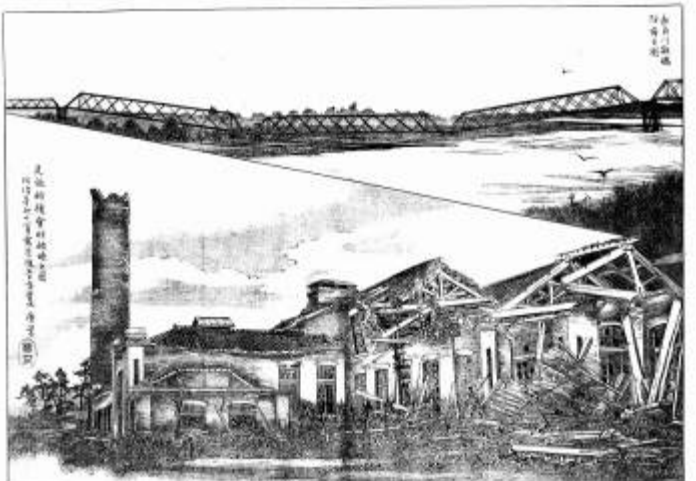


尾張大地震之図 震災記聞前号之続 第 36 号
(明治 24 年 12 月 10 日)

右にご紹介する図は、上下 2 つの図版で構成されています。図上部の長良川鉄橋は地震の発生する 4 年前、明治 20 年に出来たばかりでした。

また下部の図にある尾張紡績会社は煉瓦造りの西洋建築でしたが、地震の被害に遭ったようです。

当時の先端技術も自然災害にはかなわなかったという悲しさが感じられます。



長良川鉄橋陥落の図／尾張紡績会社破壊の図
十月二十八日震災記聞 第 35 号
(明治 24 年 11 月 30 日)

◆津波についての記事、図版

第118号(明治29年7月10日)	海嘯被害録上巻
第119号(明治29年7月25日)	海嘯被害録中巻
第120号(明治29年8月10日)	海嘯被害録下巻

我々にとってまだ記憶に新しい2011年の東日本大震災における津波同様、明治29(1896)年6月15日に起こった大地震とそれにもなあって発生した三陸の大津波は、全3巻の特集号というボリュームが語るとおり、衝撃的な出来事だったようです。

風俗画報の中では「津波」を指す言葉として「海嘯」と言う言葉が使われていますが、WEB版では「津波」と入力してでも検索することができる様にキーワードを付加しています。

この特集号で一番有名な図がこちらではないでしょうか。

激しい水の流れに抵抗しながら、お互いに助け合っている様子が良く分かります。しかし水の勢いには抗えない、そんな無念さも伝わってきます。津波の怖さを良く表していますね。



表紙 海嘯被害録上巻
第118号
(明治29年7月10日)



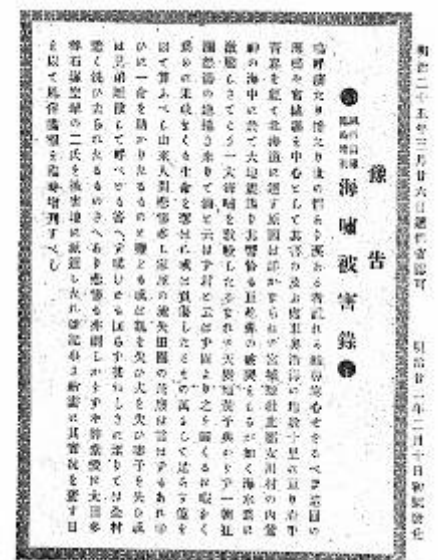
海嘯の惨毒家屋を破壊し人畜を流亡するの図
海嘯被害録上巻 第118号(明治29年7月10日)

特集号では各地の被災状況を紹介しています。

この津波発生直後に刊行された117号(6月28日刊行)の巻末には、「海嘯被害録」の刊行予告が載っています。災害発生から特集号を出すことをすぐに決定したのが分かります。

予告記事には二名を被害地に派遣することも書かれていて、この二人が各地を取材したのでしょう。

特集号の上巻が発売されるまで約一ヶ月ありますが、取材範囲は広範囲に及び、風俗画報編集部の情報収集能力の高さが良く分かります。



裏表紙 風俗画報
第117号(明治29年6月28日)

両親と自分の子供が流されていくのを助けることが出来ず、どんどん離れていく様子が描かれています。

こういった「無情の別れ」が各地で頻繁に起きていたようで、色々なエピソードが記事と図で紹介されています。

自然災害の恐ろしさ、非情さが伝わってきます。



樹上より両親愛子の最期を見送るの図(釜石町)
海嘯被害録上巻 第 118 号 (明治 29 年 7 月 10 日)

痛ましい被害の様子の記事や図が多数収録されている一方で、「運良く一命を取り留めた」という記事や図も多く掲載されています。

この図では女の子が臼の中に入って助かった様子が描かれています。

少しでもこういった話があると救われる気がしますね。それは当時の編集者も同じ気持ちだったのかもしれない。



海嘯被害録下巻 第 120 号 (明治 29 年 8 月 10 日)

◆洪水についての記事、図版

第 124 号(明治 29 年 10 月 10 日)	洪水地震被害録上巻
第 126 号(明治 29 年 11 月 1 日)	大洪水被害録中巻
第 128 号(明治 29 年 11 月 20 日)	大洪水被害録下巻
第 370 号(明治 40 年 9 月 15 日)	各地水害図会
第 412 号(明治 43 年 9 月 5 日)	風俗画報水害号上
第 412 号(明治 43 年 10 月 5 日)	風俗画報水害号下

津波と同じ年の明治 29 年には、日本各地の広範囲に集中豪雨による洪水被害が起こりました。各地方の被害状況を報じるため全 3 巻のボリュームで特集号が出されました。

実際に秋田県から兵庫県まで様々な地域の被害についての報告が載っています。



表紙 大洪水被害録中巻
第 126 号
(明治 29 年 11 月 1 日)

右の図は、神戸の遊郭の被害状況を報じる図です。慌てて高い場所に避難していますが、間近まで水が迫ってきています。

当時は高層の建物もあまりなく、逃げる場所も少なかったことでしょう。



兵庫県神戸市福原町遊廓水害に遭うの図
大洪水被害録下巻 128号（明治29年11月20日）

こちらも神戸の状況です。記事によると、午後11頃には寝ている人の顔まで水が迫ってきていたそうです。とても急な出来事だったことが人々の様子からもうかがい知れます。また、お互いに何とか助け合おうとしている姿も描かれています。



神戸市荒田町宮本某家族の惨状
大洪水被害録中巻 126号（明治29年11月1日）

こちらは長野県の鉄橋の様子です。洪水によって各地で数多くの橋が崩壊したようですが、鉄の橋も流す勢いだったということでしょうか？

地震の特集号にも鉄橋の崩落を報じる図がありましたが、明治時代には鉄橋が多数建設されていたことも分かります。



信州丹波島鉄橋破壊の図 大洪水被害録中巻 126号
（明治29年11月1日）

明治40年と明治43年には東日本の広範囲で被害をもたらした洪水があり、それぞれに特集号が発行されています。

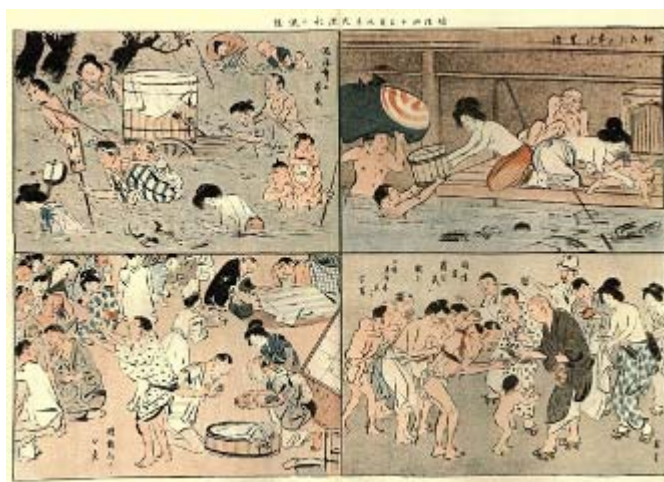
各々の洪水時の様子を表した図には明治29年の時と違って人々のたくましさを感じられます。これは前回の経験に基づいた行政の対応や、人々の行動も要因かもしれません。また治水事業などの整備がより進んだ成果なのかもしれません。



水害中の隅田川堤上の光景 各地水害図会 第370号
(明治40年9月15日)



明治四十三年八月東京大洪水の惨状 風俗画報水害号上
412号 (明治43年9月5日)



明治四十三年八月大洪水の混雑○押入れの中で生活他
風俗画報水害号下 413号 (明治43年10月5日)

まだまだご紹介したい「災害」に関する記事や図は沢山ありますが、今回はここまでにしましょう。

風俗画報がその編集方針を大きく変えるきっかけになったと思われる「災害」に関する記事や図の中には自然災害に対する恐怖ややりきれない怒り、被害に対する悲しさなどがひしひしと伝わってきます。編集者や絵師の気持ちがとても良く現れているのではないのでしょうか。みなさんも風俗画報で「災害」に関する記事や図をご覧ください、その気持ちを感じていただけたらと思います。

次回は明治時代の「防災対策」や、「災害時の救援、救済」はどのように行われていたのかを記事や図でご紹介いたします。是非ご期待ください。

ブログ「[JK BOOKS「風俗画報」こんな記事も載っています！](#)」では他にも色々なテーマで風俗画報の図版や記事を紹介しています。

また、[Twitter](#)でも情報を発信しております。こちらも是非ご覧ください。

掲載の商品・サービスに関するお申し込み、お問い合わせは、株式会社 紀伊國屋書店 データベース営業部
(電話:03-6910-0518、ファクス:03-6420-1359、e-mail:online@kinokuniya.co.jp)までお願い致します。

お預かりした個人情報は、弊社規定の「個人情報取扱方針」<http://www.kinokuniya.co.jp/06f/gaivo6.htm> に則り、取り扱わせて頂きます。

Gale Primary Sources と JK Books 「風俗画報」コラボ企画

欧米の図版資料と「風俗画報」 ～自然災害～

センゲージ ラーニング株式会社 Gale

センゲージ ラーニング株式会社 Gale は、イラストレイテッド・ロンドン・ニュース(Illustrated London News、以下 ILN)に代表される欧米の図版資料のデータベースを多数提供してきました。図版資料は、都市の景観、社会風俗、日用品などの具体的な事物を視覚的に伝えるだけでなく、諷刺画に見られるように、当時の集団的な無意識まで浮かび上がらせる貴重な資料です。

歴史資料としての図版資料は日本でも多数発行されてきましたが、それを代表するのが「風俗画報」です。Gale が提供する図版資料と「風俗画報」を比較することによって、一方の資料だけでは見えてこない部分が見えてくるかもしれません。

本稿では、ILN など欧米の図版資料と「風俗画報」を、特定のテーマでご紹介します。「万博博覧会」をテーマとした 1 回目、「起源・始まり」と題して、19 世紀から 20 世紀初頭に起源をもつモノや現象を取り上げた 2 回目に続き、今回と次回は災害を取り上げます。今回とりあげるのは、自然災害の代表である地震と洪水です。

◆地震

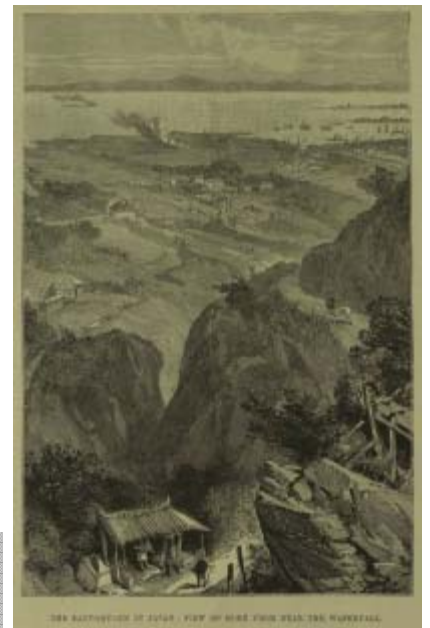
地震の多い日本の記事を探してみます。記事名に”Earthquake”と”Japan”の二つの単語をもつ記事を検索すると、最も古いもので、1856 年 1 月 5 日の記事が見つかります。キャプションには「日本で発生した最新の地震の光景ーディアナ号の沈没」とあります。この記事が掲載される一年以上前の 1854 年 12 月 23 日(嘉永 7 年 11 年 4 日)、マグニチュード 8.4 の大地震が東海地方を襲いました。安政東海地震です。ロシアの提督プチャーチンが、幕府の川路聖謨らを相手に下田で通商開始を迫っている最中に大地震が襲いました。ロシアのフリゲート艦ディアナ号は座礁・大破し、その後沈没しました。絵をよく見ると、座礁した船の上に乗組員がおり、海に投げ出された人々もいるのが分かります。記事冒頭では、乗組員の回想を元にしてしていると断わり書きがありますが、海岸の樹木も日本らしくなく、乗組員の回想を元に、想像で描かれたものと思われます。



次に紹介する日本の地震の記事は、1891 年(明治 24 年)10 月 28 日に発生した濃尾地震に関するものです。ILN は、この地震を 11 月 7 日、11 月 21 日、12 月 12 日の三回に分けて報じています。幕末の安政東海地震が地震発生から 1 年以上も後に報道されたことと比較すると、情報の伝達が劇的に早くなっています。しかし、記事の内容をみると、被害状況に関しては死傷者数や家屋の損壊数について公式発表を元に伝えるに止まり、その他は、被害にあった東海から関西一帯の地域が日本でも最も人口が多く、経済的に豊かであること、運河と川が巡る大阪は日本のベニスと呼ばれていることなど、被害にあった地域を紹介する内容となっています。被害状況がほとんど分からない状況にあつては、他に書きようがなかったのでしょうか。ところどころに、東洋学者エドウィン・アーノルドの文章を参照したと思われる記述があります。エドウィン・アーノルドは、日本をはじめアジア各地を訪問

し、幾多の著作を残しました。実は、この記事が掲載された同じ号に、日本の生活や風俗を紹介したアーノルドの新著”Seas and Lands”の紹介記事”Sir Edwin Arnold in Japan”が掲載されています。アーノルドの新著を紹介する記事を掲載しようとしていたところに日本で地震が発生したとの情報が飛び込んできたため、参考にして記事を書いた、ということかも知れません。絵は、神戸市街地を遠望したものです。

“Destructive Earthquake in Japan”
November 7, 1891



2週間後の11月21日の記事では、ロンドンの日本総領事が災害義援金の募集を始めたこと、最大の被災地は岐阜と大垣で、この両市では地震の後に火災に見舞われ、各々1,000人以上の死者が出たこと、近隣の名古屋でも大きな被害を受けたことを続報しています。ところが、2週間前の記事で詳しく紹介した大阪と神戸では大きな被害は報告されていないとし、それにもかかわらず今回も神戸と大阪の絵を1枚ずつ掲載しています。上段の神戸の絵は、鉄道と沿線の家屋を描いたもの、下段の大阪の絵は、戎橋を描いたものです。どちらも地震の被害を受けた様子はなく、日常の情景を描いたものです。このあたりのことを記事では、「それでも、被災地に近いこれらの場所の光景も、読者にとっては興味を引くことになるだろう」と、説明していますが、苦し紛れの弁明としか読めません。

“The Earthquake in Japan” November 21, 1891



12月11日の記事で、ようやく被災地の絵が掲載されます。場所は岐阜です。記事は、詳しい被災状況を報じた横浜の英字紙 Yokohama Gazette の号外を紹介し、これをもとに死傷者数や建物の損壊数を報じています。



“The Earthquake in Japan” December 12, 1891

日本以外の地震に関する記事を幾つか紹介します。

最初に紹介するのは、イタリアはナポリの南東にあるバジリカータ州で 1857 年 12 月に発生した地震です。ILN の特派員が州都ポテンツァでの大きな被害状況を伝えています、それよりもっと大きく報じているのは、バジリカータ州の行政長官が地震発生直後に地元の刑務所を訪問したことです。刑務所でも大きな被害を受け、死者も出て、囚人の間に不安と動揺が広がる中で、行政長官として、囚人の脱走を防止するために、あらゆる手段を講じる用意があると述べた、ということが伝えられています。



“The Great Earthquake at Naples”
January 23, 1858

次に紹介するのは、1863 年にフィリピンのマニラを襲った地震です。これも特派員が現地で目撃した情報に基づいた記事です。右図左側の挿絵は、16 世紀に創建されたフィリピンを代表する教会、マニラ大聖堂の崩壊の様子です。晩祷を捧げていたときに地震が襲い、司祭や聖歌隊員の多くが崩落した建物の下敷きになりました。壊れたオルガンのパイプを使って水を与えながら下敷きになった人々の救出を試みましたが、重い石材を除去する術もなく、彼らは命を落としました。右側の挿絵は、マニラ市郊外にあるビノンド教会の塔です。16 世紀に創建された古い教会で、塔の上部だけが崩落しています。



“The Earthquake at Manilla” August 29, 1863

◆洪水

次に洪水に関する記事を見てみましょう。地震は南欧を除けばヨーロッパではほとんど発生しませんが、洪水はしばしば発生します。洪水の記事も比較的多く掲載されています。その中から幾つかご紹介します。

右の絵は、イングランド東部にある沼沢地フェンズの洪水のときの様子を描いた 1862 年のものです。この洪水が原因で、3 万エーカーの耕作地、牧草地、果樹園が水没し、農作物に大きな被害が発生しました。絵は、水を堰き止めようと人々が懸命の作業に当たっているところ です。



“The Flood in the Fens” May 24, 1862

次に紹介するのはフィレンツェのアルノ川の洪水を描いた 1864 年のものです。風景画家のエドワード・ウィリアム・クック (Edward William Cooke) がたまたまフィレンツェを訪問していた時に洪水が発生、そのときのスケッチが ILN に掲載されました。記事では、クックの手紙を引用する形で洪水の様子を伝えています。川の水がトリニタ橋のアーチの上部にまで迫っている様子が分かります。川の表面には木々の枝や幹も見えます。クックの手紙によれば、大雨の影響で川の水嵩が上がり、さらに周囲の丘陵地帯から流れ込んだ水が盆地の市街地に集まり、洪水になりました。川には、フィレンツェ近郊の森やブドウ畑や果樹園から流されてきた木々が浮かんでいます。



“Great Flood of the River Arno at Florence”
December 10, 1864

最後に紹介する絵は、教会の中が浸水している様子を描いたものです。これまでご紹介した絵を見てもわかるように、ILN の絵は地震に襲われた建物や洪水に見舞われた場所を描いたものが多いのですが、この絵は、教会の中が描かれているということもあり、そこにいる人々がクローズアップされている珍しい絵です。場所はイングランド東部の町、リン・レギスのセント・マーガレット教会です。日曜日の礼拝中に、教会の中まで浸水してしまいました。椅子の上に乗って水を避けている人、男性に抱きかかえられている女性、足首の上まで水に浸る中を進む人など、様々です。絵は、リン・レギス在住の L.G.キーンという人物によって描かれたものです。



“Flood in a Church at Lynn” March 24, 1883

掲載の商品・サービスに関するお申し込み、お問い合わせは、株式会社 紀伊國屋書店 データベース営業部

(電話:03-6910-0518、ファクス:03-6420-1359、e-mail:online@kinokuniya.co.jp)までお願い致します。

お預かりした個人情報は、弊社規定の「個人情報取扱方針」<http://www.kinokuniya.co.jp/06f/gaiyo6.htm> に則り、取り扱わせて頂きます。



第 17 号

商品情報をはじめ、OCLC に関する様々な情報をご案内致します。

●○Topics●○

全国遺跡報告総覧 WorldCat と連携！

「[全国遺跡報告総覧](#)」は、国立文化財機構奈良文化財研究所が公開しているサービスで、全国の自治体や調査機関が発行した埋蔵文化財の発掘調査報告書の全文データをインターネット上で検索・閲覧することができます。



2017 年 2 月より「全国遺跡報告総覧」の 19,000 件を超える報告書のメタデータが OCLC OAIster データベースに搭載され、WorldCat.org、WorldCat Discovery Services 上で検索できるようになりました。

検索結果画面から直接、奈良文化財研究所の「全国遺跡報告総覧」のページに移動して、該当の報告書の PDF をダウンロードすることができます。

[WorldCat 上の「全国遺跡報告総覧」のレコードはこちらから》](#)



●○OCLC メールニュースより●○

Wikipedia に WorldCat の引用情報を自動生成



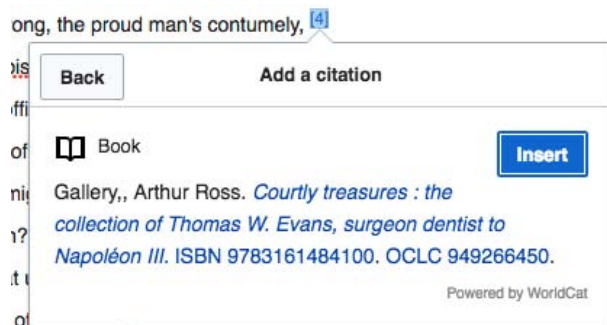
THE WIKIPEDIA LIBRARY

近年、OCLC は Wikimedia 財団と幾つかのプロジェクトを立ち上げており、2012 年には、図書館

のメタデータが Wikipedia に貢献できる方法を Wikipedia 編集者と共に検討しました。こういった事業の一環として、Wikipedia の編集ツールに WorldCat に登録された書誌情報の引用を、自動で生成する機能が追加されました。

これまで Wikipedia の記事に書誌情報を引用するには、コピー・ペーストや再編集を行う手間がかかっていましたが、Wikipedia の編集機能が OCLC の [WorldCat Search API](#) と連携したことにより、ISBN、ISSN 等の識別番号があれば、WorldCat からの書誌情報引用および WorldCat 書誌へのリンクが自動生成できるようになりました。

この機能を使えば、Wikipedia の記事を編集する際、WorldCat に蓄積された信頼できる引用情報が簡単に



自動で生成された引用情報の例

(Wikimedia のブログより)

参照できるようになり、また読者が興味を持つような資料を手軽に提示することが可能になります。ツール面での連携の他にも、2016 年には公共図書館と Wikipedia の連携促進プロジェクトが、The Knight News Challenge の助成対象に認められました。OCLC Research のメリリー・プロフィット氏は、「OCLC と Wikipedia は図書館の信頼できる情報リソースと、世界で最も幅広く使われている情報リソースの寄稿者、編集者たちとを繋いでいきます。」とコメントしています。

[当記事の詳細はこちらから》](#)

カナダ国立図書館・文書館(LAC)が WorldShare Management Services を採用

4 月 13 日、[カナダ国立図書館・文書館](#) (Library and Archives Canada、LAC) が、20 年に渡ってカナダの図書館で利用されてきた既存の総合目録システム AMICUS に替わるものとして、[WorldShare Management Services](#) (WMS) を採用すると発表しました。既存のシステムから WMS への入れ替えは今後 2 年間をかけて行われ、2018 年中に完了する予定です。これについて OCLC CEO のスキップ・ブリチャード氏は「WMS の採用によって、カナダの文化的遺産が、カナダ国内のみならず世界中からも一層アクセスしやすくなるでしょう。」と述べています。



[当記事の詳細はこちらから》](#)

NATO 防衛大学が WorldShare Management Services を採用



4 月 18 日、ローマにある [NATO 防衛大学](#) (NATO Defense College) が、WorldShare Management Services を採用しました。同大では、NATO に関する資料を集めたポータル「NATSHEL (NATO Sources for Higher Education and Learning)」を構築するプロジェクトを立ち上げており、同プロジェクトの総合目録システムとして WMS を採用することによって、NATO 研究のための科学技術文献を、他の学術研究機関に広く提供することを目指しています。

[当記事の詳細はこちらから》](#)

Demystifying IT : 図書館員が IT 技術者と上手に協働するために

4 月 27 日、OCLC は、図書館員が IT 技術者と効率的に業務を進める為の入門書シリーズ [Demystifying Born Digital series](#) から、新たに [Demystifying IT: A Framework for Shared Understanding between Archivists and IT Professionals](#) というレポートを発表しました。



このレポートでは、IT 技術者のタイプとその提供できるサービス、ソフトウェア開発のプロセスなどを解説しつつ、IT スタッフにならって時間とコストを厳しく管理すること、用語の使い方を統一すること等、図書館員が IT 技術者と協力する為に必要な内容が解説されています。

[全文ダウンロード\(英語\)はこちら》](#)

医中誌、東文研と契約締結

5 月 31 日、OCLC は、[医学中央雑誌刊行会](#)および[東京文化財研究所](#)との連携契約を発表しました。

医学中央雑誌刊行会からは「医中誌 Web」、東京文化財研究所からは「日本美術年鑑」のメタデータが提供され、OCLC のセントラルインデックスに取り込まれます。医中誌 Web に含まれる日本で発行された医学・歯学・薬学・看護学と関連分野の定期刊行物の約 6,000 誌から収録した約 1,000 万件の論文の書誌情報、及び日本国内の美術界の動向をまとめた「日本美術年鑑」の書誌情報が WorldCat DiscoveryServices で近日中に検索可能になる予定です。ご期待ください。

[その他、最近 連携契約を締結したプロバイダはこちらから》](#)

●イベント●

OCLC アジア・パシフィック地域会議が開催されます！

今年 11 月 29 日(水)～30 日(木)の 2 日間、東京の早稲田大学国際会議場で OCLC アジア・パシフィック地域会議が開催されます。



◇ 日程：11 月 29 日(水)、30 日(木)

◆ 会場：早稲田大学国際会議場

7 月上旬にイベントのホームページが公開され、詳細なスケジュールやゲストスピーカーが発表される予定です。OCLC 加盟館でなくてもご参加頂けます。会議は毎年各国持ち回りで開催されており、今回は日本で開催されることになりました。

世界の図書館の最新事情にふれることができる年に一度の機会ですので、皆様是非ご参加ください！

[2017 年度地域会議のページはこちら》](#)



昨年度参加者の集合写真



◁ 2016 年度地域会議の様子はこちらの画像から

掲載の商品・サービスに関するお申し込み・お問い合わせは...

株式会社紀伊國屋書店 OCLC センター [\[http://www.kinokuniya.co.jp/03f/oclc/\]](http://www.kinokuniya.co.jp/03f/oclc/)

電話:03-6910-0516 ファクス:03-6420-1359 e-mail:oclc@kinokuniya.co.jp までお願い致します。

お預かりした個人情報、弊社規定の「個人情報取扱方針」<http://www.kinokuniya.co.jp/06f/gaiyo6.htm> に則り取り扱わせて頂きます。

Engineering Case Studies Online 工学分野の失敗事例から成功へのチャンスをつかむ

工学分野において、過去の事故や失敗事例を分析することは、多くの教育カリキュラムの基本となっています。成功への大きなチャンスをつかむべく、現代の技術者や学者が何をすべきでないか、どのように設計図を作成するかを学ぶために、過去の失敗を深くかつ公平に分析するための包括的で信頼性の高い情報源が必要とされています。

Alexander Street, a ProQuest Company が提供する本データベースは、これらの高まりつつある需要に応えるべく、250 時間分のビデオと 50,000 ページのテキスト(完成時)を収録するマルチメディア・データベースです。

米国、英国、オーストラリアを中心に、ヨーロッパやアジアの事例も選択的にとりあげています。法的、倫理的意味を含む多彩な角度から事例をとりあげており、建築、ビジネス、法律、都市計画、健康と安全、環境研究、科学、社会学、メディア、技術といった分野で広くご利用いただけます。



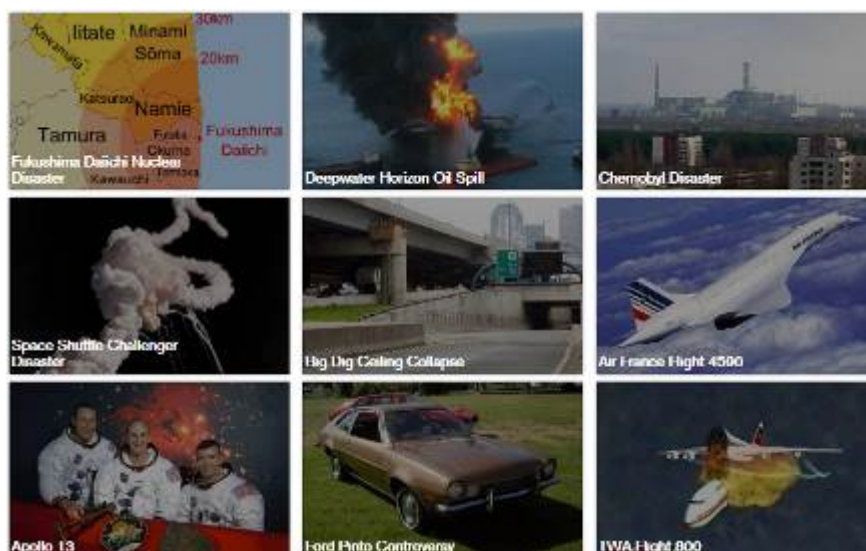
◆収録コンテンツ例

- ・ 主要な失敗をとりあげた長編ビデオ・ドキュメンタリー。
- ・ 工学分野の主要な概念と課題を詳細に説明し、記述したモノグラフ。
- ・ 何が悪かったのかを正確に描写するシミュレーション。
- ・ 重大な事故の映像。関連のニュース番組を含む。
- ・ 音声データとトランスクリプト(逐語記録)。
- ・ 関係者、犠牲者、証言者の証言。
- ・ 提供可能な限り、イメージ、事故報告、青写真、その他の保存資料。
- ・ 新聞、ウェブサイト、雑誌からの信頼できる資料の書誌情報。
- ・ 特別に書かれた工学倫理を追求した事例。

◆影響力の大きいケース・スタディを一括提供

本データベースは、最も頻繁に教育現場で取り上げられてきた影響力の大きいケース・スタディを取り上げます。収録資料は、工学図書館司書、職員による諮問委員会と共に、専門編集者により慎重に検討されたもので、Digital Rights Group、BBC、Future Media、TVF International、プリンストン大学出版、John Wiley & Sons、ハーバード大学出版、米国土木学会など、報道局、映像制作機関、学術出版社、工学系学といった幅広い機関との提携により収録が可能となったものです。ビデオコンテンツの6割が2000年以降に作成されたもので、新たなコンテンツも定期的に追加されています。

2017年4月現在、約80件のケース・スタディを掲載しています。

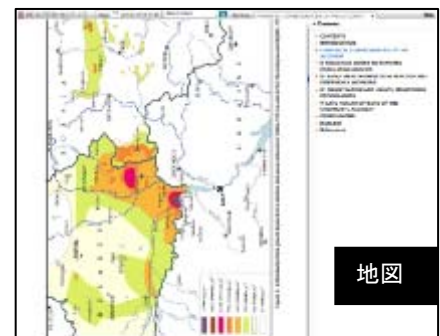
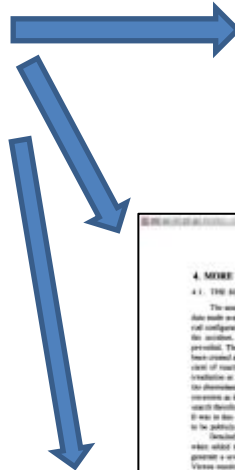
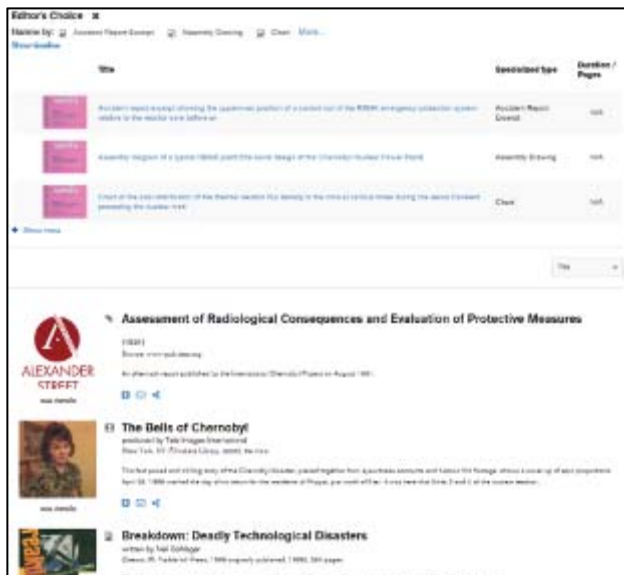


◆掲載されている主なケース・スタディ(2017年4月現在)

- ・ Deepwater Horizon Oil Spill (BP) (メキシコ湾原油流出事故)
- ・ Fukushima Daiichi Nuclear Disaster (福島第一原子力発電所)
- ・ Chernobyl Disaster (チェルノブイリ原子力発電所)
- ・ BOAC Flight (英国海外航空 781 便墜落)
- ・ Titanic (タイタニック号)
- ・ Space Shuttle Challenger Disaster (スペースシャトル・チャレンジャー号)
- ・ Piper Alpha Accident (石油生産プラットフォーム、パイパー・アルファ爆発)
- ・ Big Dig Ceiling Collapse (Big Dig プロジェクト)
- ・ TWA Flight 800 (トランスワールド航空 800 便墜落)
- ・ Air France Flight 4590 (エール・フランス 4590 便墜落)
- ・ Apollo 13 (アポロ 13 号)
- ・ Hyatt Regency Walkway Collapse (ハイアットリージェンシー空中通路)
- ・ Tacoma Narrows Bridge Collapse (タコマナローズ橋崩壊)
- ・ Bhopal Gas Disaster (ボパール化学工場事故)
- ・ South African Airways Flight 201 (南アフリカ航空 201 便墜落)
- ・ Ford Pinto Controversy (フォード・ピント事件)
- ・ September 11 Attacks (9月11日の同時多発テロ)

◆収録事例 ～チェルノブイリ発電所事故～

報告、図表、地図、写真、証言、ビデオなど、資料の形態にこだわらず、関連資料を様々な角度から収集しています。



地図



事故報告抜粋

チェルノブイリ関連コンテンツ一覧。
資料の形態(ビデオ、報告書等)が
一目でわかります。



ビデオとトランスクリプト

◆多彩な索引：様々な角度からの調査を可能にします

様々な角度からの調査を実現すべく、各コンテンツには、多彩な索引項目が付与されており、これらを検索に利用することができます。

一例として、右にチェルノブイリ原子力発電所事故をとりあげたドキュメンタリー”CHERNOBYL: NUCLEAR MELTDOWN”の書誌情報・索引画面を掲載します。下記には、その中から内容に関する索引項目を抜粋しました。

- ・ **Field of Interest:**
World History, Engineering
- ・ **Discipline:**
History, Science & Engineering
- ・ **Specialized Area of Interest:**
Science and Technology, Nuclear Engineering
- ・ **Subject:**
Accidental deaths; Energy industry; Industrial buildings;
Pollution; Sciences; Aircraft accidents; Explosives
- ・ **Keywords and Translated Subjects:**
Ciencia y Tecnología; Ciência e Tecnologia; Engenharia
Nuclear; Ingeniería Nuclear; Chernobyl; Nuclear power plant;
Nuclear energy
- ・ **Place Discussed:**
Chernobyl, Kiev Oblast



Details	Transcript
Abstract / Summary The Chernobyl Nuclear Power Plant, a now-decommissioned nuclear power station in Pripjat, Ukraine, experienced one of the world's most devastating nuclear disasters on April 26, 1986. Estimates suggest that approximately 64 people died as a result of the disaster, but many more will likely succumb to future illnesses brought on by radiation exposure.	
Subtitle Language English	
Field of Interest World History; Engineering	
Discipline History; Science & Engineering	
Specialized Area of Interest Science and Technology; Nuclear Engineering	
Catalog Number 15078	
Copyright Message Copyright © 2011. Used by permission of A&E Television.	
Director Jonathan Martin, fl. 1999	
Content Type Documentary	
Duration 37 minutes	
Format Video	
Subject Accidental deaths; Energy industry; Industrial buildings; Pollution; Sciences; Aircraft accidents; Explosives	
Historical Theme Science and Technology	
Keywords and Translated Subjects Ciencia y Tecnología; Ciência e Tecnologia; Engenharia Nuclear; Ingeniería Nuclear; Chernobyl; Nuclear power plant; Nuclear energy	
Language of Edition English	
Original Language English	
Original Publication Date 1998	
Original Release Date 1998	
Place Discussed Chernobyl, Kiev Oblast	
Producer Jonathan Martin, fl. 1999	
Publisher A&E Television Networks	
Place Published / Released New York, NY	
Release Date 1998	
Narrator Stan Watt, 1930-2005	
Series / Program Great Blunders in History	

掲載の商品・サービスに関するお申し込み、お問い合わせは、株式会社 紀伊國屋書店 データベース営業部

(電話:03-6910-0518、ファクス:03-6420-1359、e-mail:online@kinokuniya.co.jp) までお願い致します。

お預かりした個人情報は、弊社規定の「個人情報取扱方針」<http://www.kinokuniya.co.jp/06f/gaivo6.htm> に則り、取り扱わせて頂きます。

Women's Studies Archive Women's Issues and Identities 女性関連の問題とアイデンティティ

センゲージ ラーニング株式会社 Gale

センゲージ ラーニング社 Gale 提供“Women's Studies Archive - Women's Issues and Identities”データベースは、欧米の研究機関や図書館が所蔵する定期刊行物や内部文書をデジタル化してご提供するデータベースです。主として 20 世紀のフェミニズムの歴史に迫る画期的電子リソースです。手書き資料以外の活字資料はすべてフルテキスト検索ができます。



◆女性解放運動の貴重な資料群

～参政権獲得後のフェミニズム運動～

女性の権利拡張運動は、参政権の獲得を目指す運動から始まりました。19 世紀半ばから 20 世紀初頭にかけて、参政権獲得運動が本格的に展開されるようになり、その後、女性を含む国民を総動員した第一次世界大戦の経験を経て、戦後、欧米諸国で女性参政権が実現（アメリカでは 1920 年、イギリスでは 1928 年）、女性も法的に人間として認められるようになりました。

先進諸国では、政治的権利の問題や貧困を克服した後も、社会に蔓延する差別や不正などに立ち向かうべく、1960 年代には大規模な対抗運動が繰り広げられました。女性の権利に関しては、参政権を獲得し、政治的には人間として認められるようになったものの、家族や私的な領域、さらには対抗運動の内部にさえ男女差別が残る現実を前に、女性達は「個人的なことは政治的なことである」との認識の下、女性の権利の問題をラディカルに問い直し、女性が女性として解放されることを目指しました。こうして生まれたのが女性解放運動（第二波フェミニズム）です。

本データベースは、1960 年代から 70 年代にかけて先進諸国で展開された女性解放運動の下で生み出された膨大な資料群を精選して提供するものです。誕生から半世紀を経た女性解放運動に歴史的評価を下すべく、広く研究者の利用に供します。

◆女性史関連資料◆

女性解放運動（第二波フェミニズム）が展開される中で、アカデミズムの世界では、女性を学問の対象にする新たな知的動向が生まれました。とりわけ歴史研究において、女性史関連の講座の設置が進み、従来の男性中心の歴史を新たな視点で読み替えた多くのモノグラフや学術論文の刊行が刊行されました。このような動きと並行して進行したのが、女性史関連資料の収集です。アメリカでは 1968 年にカリフォルニア州バークレーに「女性史研究センター」が、1980 年には女性史関連の歴史資料を包括的に収集・提供する機関として「全米女性史プロジェクト (National Women's History Project)」が設立されました。

本データベースは、これらの機関が収集した雑誌、新聞、パンフレット、ニュースレター、会議録、報告書、覚書など、刊行物と未刊行資料の両方を提供します。

◆産児制限、家族計画関係資料◆

女性解放運動が取り上げた課題の中で、最も重要な問題の一つが出産に関わる権利でした。産む権利、産まない権利を問い直すことは、産児制限の歴史を問い直すことに通じます。

本データベースは、「全米家族計画連盟」の創設(1918年)以降、約半世紀に亘る内部文書のほか、世界で初めて家族計画を奨励したイギリスの団体「マルサス主義連盟」の月刊誌『ザ・マルサシアン』を、1879年の創刊号から1921年まで収録します。

◆スワスモア大学所蔵、戦間期アメリカの平和運動関連資料◆

第一次世界大戦は、平和運動史における大きな転換点です。空前の死傷者を出した第一次大戦は人々に衝撃を与え、戦後、国際連盟や国際問題研究所の設立やパリ不戦条約の締結など、平和推進のための国際条約や組織が生まれました。

アメリカでは、参戦の是非を巡って世論が二分し、参戦反対派は組織的な運動を展開しました。「女性反戦党」も、そのような動きの中で設立されました。終戦後も、アメリカの女性達は、ヨーロッパで設立された国際機関「女性国際平和自由連盟」を通じて、各国の反戦組織と連携して反戦運動を展開しました。

本データベースは、アメリカ有数の平和研究機関であるスワスモア大学が所蔵する平和運動関係資料から、「女性反戦党」「女性国際平和自由連盟アメリカ支部」「女性平和連合」の三つの団体の文書を提供、知られざる戦間期アメリカの平和運動に光を当てます。

◆一世紀におよぶフェミニズムの歴史**～全米女性史プロジェクト・社会史国際研究所所蔵 定期刊行物～◆**

女性参政権運動の資料群、戦間期アメリカの女性平和運動の資料群と並んで、本データベースの中核をなすのが女性関連の定期刊行物(雑誌、新聞、ニュースレター)です。1880年代から1970年代までの100年間に、アメリカ、オーストリア、ベルギー、フランス、ドイツ、オランダ(オランダ領インドネシア含む)のヨーロッパ諸国で刊行された約1,000タイトルを収録します。アメリカの刊行物については「全米女性史プロジェクト」、ヨーロッパの刊行物については、アムステルダムにある世界有数の社会主義、労働運動史、政治運動史関係資料の所蔵機関「社会史国際研究所」の所蔵資料を収録します。第一波から第二波までのフェミニズムの歴史が定期刊行物を通して蘇ります。

◆収録コレクション◆**【アメリカ】****■Herstory**

- ・ 収録資料:定期刊行物(雑誌、新聞、ニュースレター)
- ・ 収録期間:1956年-1974年
- ・ 原資料所蔵機関:全米女性史プロジェクト

1956年から1974年にかけて、アメリカ国内外で行われた女性権利拡張運動の展開を記録した、雑誌、新聞、ニュースレターを収録します。これらの資料は、アメリカ最大の女性団体「全米女性機構(National Organization of Women)」、レスビアン、フェミニズム運動のパイオニア的団体「ブリティスの娘たち」、「平和と自由のための女性国際連盟」、「平和のための女性運動」等の各種女性団体が、米国最大の女性史資料収集機関「全米女性史プロジェクト(National Women's History Project, NWHP)」に寄贈した刊行物の中から、NWHPが選定したものです。アメリカ最初の女性解放運動のニュースレター『女性解放運動の声(Voice of the Women's Liberation

Movement) 』、アメリカフェミニズム系雑誌を代表する『ミズ(Ms.)』、アメリカ最初のラディカル・フェミニズムの雑誌『女性解放ジャーナル(A Journal of Female Liberation)』、ユダヤ教フェミニズムの雑誌『リリス(Lilith)』、イギリスで最初に女性解放運動を始めた女性グループが発行したニュースレター『シュリュー(Shrew)』など、約 200 タイトルを収録します。「ビリティスの娘たち」の機関誌”The Ladder”はほぼ全号、女性権利拡張のパイオニア、マリアン・アッシュ(Marian Ash)が刊行したニュースレター”Skirting the Capitol”は全号が収録されています。その他、全米女性機構の地方支部のニュースレター、地方の女性団体の刊行物、さらには、カナダ、イギリス、ドイツ、オーストラリア、チェコスロバキアなど、アメリカ以外の女性団体の雑誌やニュースレターも収録されています。賃金の平等、生殖の権利、平和運動における女性の役割など、20 世紀後半の女性権利拡張の歴史を研究する上で貴重な資料集です。



■ Women and Health/Mental Health

- ・ 収録資料: パンフレット、ニュースレター、報告書、会議録、覚書
- ・ 収録期間: 1965 年-1975 年
- ・ 原資料所蔵機関: 全米女性史プロジェクト

「女性史ライブラリー」は、女性史関連の資料収集を目的とし、1968 年に設立されました。女性史に対する関心が高まる中、所蔵資料も増え、特に 1960 年代から 1970 年代にかけての女性解放運動最盛期の資料は、全米有数の規模を誇ります。また、女性の健康と精神衛生に関するコレクションはライブラリーの最も重要なものの一つです。

本コレクションは、パンフレット、ニュースレター、報告書、会議録、覚書、新聞記事、雑誌記事で構成されています。”People”, ”Harper’s Bazaar”, ”Psychology Today”など、女性の健康を精力的に取り上げた雑誌の特集記事も収録されています。

本コレクションの最大のテーマは中絶と産児制限です。その法的、財政的、医学的、政治的側面を論じ、子宮内避妊用具、男性用避妊薬、コンドーム、性的禁欲、そして激しい論争的になった経口避妊薬等のテーマを取り上げ



ます。その他、栄養、ダイエット、睡眠、不眠症、薬物依存、鬱病、ライフサイクルの各段階での諸問題など、女性の健康全般の問題を取り上げています。

■Women and Law Collection

- ・ 収録資料: ニュースレター他
- ・ 原資料所蔵機関: 全米女性史プロジェクト

カリフォルニア州バークレーにある「女性史研究センター」が1969年から1975年にかけて収集整理した新聞記事、雑誌記事、ニュースレターなどを収録します。メディアにおける性差別、児童保育環境の改善を求める女性の闘い、女性参政権運動、女性反戦運動、従業員給付や育児休暇に関する裁判、さらには、ルース・ギンズバーグ(現最高裁判事)が設立した「アメリカ自由人権協会(ACLU)」の女性人権プロジェクトなど、女性に関連する法的問題を広範囲に扱っています。

■Grassroots Feminist Organizations, Part 1: Boston Area Second Wave Organizations, 1968-1998

- ・ 収録資料: 各種団体議事録、書簡、ニュースレター
- ・ 収録期間: 1968年-1998年
- ・ 原資料所蔵機関: ノースウェスタン大学

第二波フェミニズム運動の拠点となったボストンのフェミニズム団体、女性団体の内部文書を収録します。各団体の議事録、財務・人事関係の記録、書簡、ニュースレターを通して、家庭内暴力、人種差別、ポルノ、レイプ、生殖の権利、LGBTQの権利など、ボストンのフェミニストの活動を浮き彫りにします。

《収録されている団体》

- ・ The Abortion Action Coalition
- ・ Boston Area Feminist Coalition
- ・ Boston Women's Union
- ・ Boston chapter of Women Against Violence Against Women
- ・ The Female Liberation
- ・ Women's School

■Grassroots Feminist Organizations,

Part 2: San Francisco Women's Building / Women's Centers, 1972-1998

- ・ 収録資料: 団体会議録、書簡等
- ・ 収録期間: 1972年-1998年
- ・ 原資料所蔵機関: ゲイ、レスビアン、バイセクシュアル、トランスジェンダー歴史協会

ボストンと共に、第二波フェミニズム運動の拠点となったサンフランシスコの女性団体「ウィメンズ・ビルディング／ウィメンズ・センター」の会議録、財務記録、書簡、ニュースレター等の内部文書を収録します。この団体は、女性が所有・運営するアメリカ初の団体として知られ、多くのプロジェクトや女性グループを支援しました。

収録文書は、国、文化、宗教、人種、生活環境の相違を超えた、女性支援団体との関わりに光を当てます。また、ゲイやレスビアンの権利、医療、立法、生殖の権利、さらには、中米への軍事介入、エイズ、アファーマティブ・アクションなど、直接には女性の権利とは関わりない問題をも取り上げました。加えて、映画、演劇、詩、音楽、美術への支援活動の実態も明らかにします。

■Planned Parenthood Federation of America Records, 1918-1974

- ・ 収録資料: 書簡等の団体内部文書
- ・ 収録期間: 1918 年-1974 年
- ・ 原資料所蔵機関: スミス・カレッジ図書館、ソフィア・スミスコレクション

生殖医療分野では米国最大の医療組織「全米家族計画連盟」は、産児制限活動家マーガレット・サンガーが創設した「アメリカ産児制限連盟」と全米初の産児制限臨床施設「産児制限臨床研究局」が統合されたものです。本コレクションは、「全米家族計画連盟」の前身の時代を含め、1918 年から 1974 年までの内部文書を収録します。

連盟の文書は、産児制限の合法化を獲得するまでの連盟の活動を明らかにするとともに、第二次大戦後の環境変化に応じてミッションを再定義していった過程を浮き彫りにします。

産児制限をはじめとする家族計画関連の政策やプログラムが確立するまでには、多くの団体や個人との協働が求められました。本コレクションは、家族計画の政策に関わった人々の考えにも分け入りながら、産児制限や家族政策の政策形成過程を明るみに出します。



■Collected Records of the Woman's Peace Party: 1914-1920

- ・ 収録資料: 書簡、会議録等
- ・ 収録期間: 1914 年-1920 年
- ・ 原資料所蔵機関: スワスモア大学平和コレクション

第一次大戦開戦から半年後の 1915 年 1 月、女性参政権論者キャリー・チャップマン・チャットとセツルメント運動の創始者ジェーン・アダムズが、反戦のための政党「女性反戦党」を創設、1 年ほどで 200 の支部と 4 万人の党員を擁するまでに拡大しました。党は、交戦国の調停を行なうウィルソン大統領に働きかけるも、1917 年にアメリカは参戦、議会は反戦運動を抑える法律を通しました。「女性平和党」内部は分断し、地方支部の多くは解散しました。本部やマサチューセッツ支部のように戦争被害者を救援する活動に従事した組織もあれば、ニューヨーク支部のように戦争への関与に反対し続けた組織もあります。終戦後の 1919 年、アメリカとヨーロッパの女性がチューリッヒで「女性国際平和自由連盟」を創設した際、「女性平和党」は連盟のアメリカ支部になりました。

本コレクションは 1914 年から 1920 年までの「女性平和党」の文書を収録します。半分以上は書簡で構成され、残りは、会議議事録、演説の記録、党員リスト、決議の記録、財務に関する文書、議会の公聴会の記録、議会の委員会の記録、プレスリリース等で構成されています。本部の書簡は、他の平和団体との関わり、学校における軍事教練への反対活動、良心的兵役忌避者への関与、アメリカ参戦後の食糧支援活動など、女性平和党の活動を明るみに出します。ジェーン・アダムズ、エミリー・ボルチ、クリスタル・イーストマン、ウッドロー・ウィルソンらの書簡が収録されています。

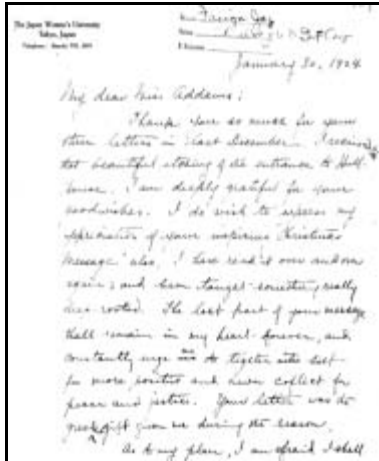


■Women's International League for Peace and Freedom: United States Section, 1919-1959

- ・ 収録資料: 書簡、議事録、定期刊行物他
- ・ 収録期間: 1919 年-1959 年
- ・ 原資料所蔵機関: スワスモア大学平和コレクション

「女性国際平和自由連盟」は 1915 年に創設された国際組織です。同連盟の米国支部は、ジェーン・アダムズとキャリー・チャップマンにより同年設立された「女性平和党」として始まりました。アダムズは連盟の初代会長を務め、連盟の財務責任者エミリー・ボルチとともに、ノーベル平和賞を受賞しています。米国支部はピーク時には、100 以上の国内地方支部と 13,000 人以上の会員を擁する大きな組織になりました。

本コレクションには、米国支部が地方支部、他の平和団体、政府機関、個人と交わした書簡、米国支部が発行したハンドブック、年次総会関係資料、理事会の議事録と決議、周年事業関係資料、米国支部が発行した定期刊行物が収録されています。日本支部をはじめとする各国支部との往復書簡も収録されています。



日本女子大学学長上代タノがジェーン・アダムズにあてた書簡(1924 年 1 月 30 日付)



連合国との講和条約締結を前に日本支部や他団体の女性たちが共同でアメリカのダレス国務長官に宛てた要望書(1951 年 2 月 8 日付)。単独講和ではなく全面講和、講和条約締結後の即時国連加盟、特定国への基地提供ではなく国連の下での安全保障が要望の骨子。市川房枝、平林たい子、平塚らいてう、上代タノ、武田清子、神近市子らが署名している。



■Records of the Women's Peace Union: 1921-1940

- ・ 収録資料: 書簡、会議録等の団体内部文書
- ・ 収録期間: 1921 年-1940 年
- ・ 原資料所蔵機関: スワスモア大学平和コレクション

1921 年に創設された「女性平和連合」は、戦争の廃絶を説く平和団体です。1923 年に、戦争の準備、戦争への予算支出、戦争の遂行を違法・違憲とする憲法修正案を、連合メンバーのエリノア・バーンズとキャロライン・バブコックが起草、連合はこれを議会で通過させることを最大の目標に、議会でのロビー活動、支持者からの請願書の募集活動を展開しました。コレクションに収録される文書の多くは書簡で、憲法修正案を 1927 年から 1940 年まで毎年議会に上程したノースダコタ州選出リン・フレイザー上院議員、ハンガリーの平和主義者シュヴァインメル・ロージから、団体が深く関わりを持った個人との書簡、会議議事録、プレスリリース資料、議会の公聴会関連資料等を収録します。両大戦間期のアメリカにおける知られざる平和運動の実態を明らかにする貴重な資料集です。

■Committee of Fifteen Records, 1900-1901

- ・ 収録資料: 捜査報告書、被疑者供述書
- ・ 収録期間: 1900 年-1901 年
- ・ 原資料所蔵機関: ニューヨーク公共図書館

15 人委員会(1900-1901)は、ニューヨークの実業家と学者からなる民間グループです。売春とギャンブルを悪とし、これらと闘うために創設されました。委員会は、悪が行なわれている場所を示す証拠を集め、地方政府当局に対して悪を根絶するための立法化を促しました。これらの活動は汚職が渦巻くニューヨークの民主党市政にも異議を唱え

る結果となりました。また、日曜日にホテル以外で酒類の販売を禁じたレインズ法の下、バーに部屋を増設、ホテルと称して酒類を提供した、いわゆる「レインズ法部屋」が売春の温床になっていたため、これにも委員会は大きな関心をもって臨みました。委員会に資金提供された捜査官がおとり捜査でマンハッタン の 歓 楽 施 設 を 訪 問、こ れ ら 捜 査 官 の 情 報 が、警 察 の 手 入 れ に 大 き く 貢 献 し ま し た。

収録資料の多くは、供述書や捜査官の報告書です。捜査官の報告書は、捜査対象の建物、容疑の詳細、容疑者名と民族的出自、捜査の詳細などの情報を含みます。また、委員会議事録、委員会と市議会や衛生当局との書簡を収録します。世紀転換期のニューヨークにおける売春の実態、ニューヨーク市政の腐敗、市政改革の試みをヴィヴィッドに伝える貴重な資料集です。

■Women's Lives

- ・ 収録資料: 書簡、日記等
- ・ 収録期間: 1834 年-1964 年

19 世紀から 20 世紀にかけてのフェミニズムの歴史に足跡を残した女性達の人生と活動に光を当てる資料集です。アメリカ共産党の党员で労働の権利の唱導者であるエリザベス・ガーリー・フリン、イギリスの女性参政権活動家であるメアリ・ガーソープ等がとりあげられています。

エリザベス・フリン文書は、女性や移民の権利を擁護し、ストライキにも従事し、しばしば公の場でも行ったフリンの活動を、論文、書簡、日記、演説、詩作品等を通して明らかにします。

メアリ・ガーソープ文書は、女性参政権と労働者の教育を擁護したガーソープの活動を、日記、書簡、自伝”Up Hill to Holloway”等を通して明らかにします。

そのほか、1840 年代から 1980 年代にかけて世界各国でキリスト教布教活動を展開した女性宣教師、西部開拓期の太平洋沿岸フロンティアにおける女性も取り上げられています。

【イギリス】

■Malthusian, 1879-1921 (formerly Women and the Social Control of Their Bodies)

- ・ 収録資料: 定期刊行物
- ・ 収録期間: 1879 年-1921 年
- ・ 原資料所蔵機関: ロンドン政治経済学院図書館

世紀転換期の二つの雑誌『ザ・マルサシアン』と『ユージェニクス・レビュー』を収録します。

『ザ・マルサシアン』は、世界で初めて家族計画を奨励した団体「マルサス主義連盟」の月刊誌です。連盟は、過剰人口が貧困の最大の原因とみなし、人口問題を忌憚なく議論し、人口法則とその帰結、人間の行動とモラルへの影響に関する知識の普及を目標にしました。連盟の活動は、公共政策やフロイトやマーガレット・サンガーら、知識人の思想にも影響を及ぼします。本コレクションでは、『ザ・マルサシアン』を 1879 年の創刊号から 1921 年の最終号まで収録します。貧困、過剰人口、人口動態、法制度、人種、産児制限等の問題を取り上げるほか、連盟の議事録や家族計画が討議された医者や政策立案者の会合の記録を収録します。

『ユージェニクス・レビュー』は、「優生学教育協会」の季刊誌です。会員同士の親睦を深め、優生学の知識を広く普及させ、科学的根拠の上に優生学を打ち立てることを目標としました。創刊号には、優生学という言葉をはじめて使った遺伝学者フランシス・ゴルトンが序言を寄せています。本コレクションでは、『ユージェニクス・レビュー』を 1909 年の創刊号から 1921 年の最終号まで収録、産児制限、中絶、離婚、犯罪、貧困、法制度等の問題を取り上げます。

■Women's Labour League: Conference Reports and Journals, 1906-1977

- ・ 収録資料: 定期刊行物、年報、議事録等
- ・ 収録期間: 1906 年-1977 年
- ・ 原資料所蔵機関: 人民の歴史博物館

「イギリス女性連盟」は、女性の選挙権獲得と社会的地位向上を目指して 20 世紀初頭に設立、1918 年に「労働党女性部」として再編されました。

本コレクションは、連盟の年次総会の議事録、年報等を収録します。総会議事録は 1906 年の第 1 回大会から 1977 年の第 53 回大会まで収録されています。連盟の雑誌”League Leaflet”は 1911 年から 1913 年までの 28 号分が、”The Labour Woman”は 1913 年の創刊から 1971 年の廃刊までの全号が収録されています。

20 世紀イギリスを代表する女性団体の活動を通して、現代イギリス女性史の一側面が浮かび上がります。

【ヨーロッパ】

■European Women's Periodicals

- ・ 収録資料: 定期刊行物
- ・ 収録期間: 1840 年-1940 年
- ・ 原資料所蔵機関: 社会史国際研究所

本コレクションは、オーストリア、ベルギー、フランス、ドイツ、オランダ、オランダ領インドネシアで発行された女性向け定期刊行物を収録します。古くは 1830 年代に発行されたものもありますが、大半は 1880 年代から 1940 年代にかけてのものです。これらの定期刊行物は、文学と芸術、女性参政権、産児制限、教育、家事に関して女性が自身の考えを述べられるよう、啓蒙的な役割を担い、社会主義運動、カトリック、若い女性や働く女性の関心事、特定の政党や政治運動など、多種多様な事柄をとりあげました。

◆インターフェイス◆



掲載の商品・サービスに関するお申し込み、お問い合わせは、株式会社 紀伊屋書店 データベース営業部

(電話:03-6910-0518、ファクス:03-6420-1359、e-mail:online@kinokuniya.co.jp) までお願い致します。

お預かりした個人情報は、弊社規定の「個人情報取扱方針」<http://www.kinokuniya.co.jp/06f/gaiyo6.htm> に則り、取り扱わせて頂きます。